

2025 年度第 1 四半期決算説明会における主要な質疑応答

No.	質問	回答
1	<p>航空宇宙システムについて、第 1 四半期の事業利益が低位に留まった要因と、第 2 四半期以降の利益計画の想定を教えてください。</p> <p>(参考) 航空宇宙システム 事業利益 1Q 実績 : 8 億円 通期計画 : 560 億円</p>	<p>第 1 四半期の事業利益が低位に留まった主な理由は、以下のとおりです。いずれも期初計画に織り込み済みであり、想定外の事象が発生したわけではありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ボーイング社向けの売上が 2024 年度第 4 四半期に集中した反動 • 民間航空エンジン（新造）の販売台数増加* <p>第 2 四半期以降は、ボーイング社向けの売上や航空エンジンの運航時間収入、例年下期偏重となる防衛事業の売上などが大きく伸長することから、着実な利益の積み上げを見込んでいます。</p> <p>※ 航空エンジン事業は、低採算の新造エンジン販売を好採算のアフターセールスで補うビジネスモデルであるため、新造エンジンの売上構成比が増加すると採算性が悪化する</p>
2	<p>エネルギーソリューション&マリンの通期事業利益見通しを引き上げた要因を教えてください。</p>	<p>主にエネルギー分野（ガスタービン・ガスエンジン）の好調な実績の反映、およびリスク対応予算の取崩によるものです。</p>
3	<p>PS&E の通期事業利益見通しを大きく下方修正しましたが、需要減退リスクは十分に織り込まれていますか。</p>	<p>計画の前提となる米国パワースポーツ市場の需要を、前年同期比で上期はマイナス 5%、下期はマイナス 15%に設定しており、相応のリスクを織り込んでいます。</p>
4	<p>米国関税政策を受け、PS&E で実施する価格転嫁の開始時期と規模感を教えてください。</p>	<p>価格転嫁は 6 月から開始しています。PS&E の年間関税コスト上昇額 157 億円に対し、1/3 程度を価格転嫁で相殺する計画です。</p> <p>(参考) 当社米国拠点は、完成車（二輪車のすべてとオフロード四輪車の一部機種）および部品を、日本をはじめとする米国外から輸入しているため、関税コストの負担が増加しています。ただし、メキシコから米国への完成車輸出は USMCA に準拠するため影響はありません。</p>
5	<p>PS&E の米国向けリテールファイナンス事業の進捗を教えてください。</p>	<p>現在、各州で認可を取得中であり、一部の州では今夏から事業開始予定です。</p>
6	<p>豪州政府が日本の「もがみ」型護衛艦の能力向上型を導入する方針を発表しましたが、当社に生じる影響を教えてください。</p>	<p>本案件は当社が主契約者ではないため回答は差し控えますが、当社は「もがみ」型護衛艦の主機（エンジン）を担当しています。</p>